

軍艦安宅製造一件

0391

11/11

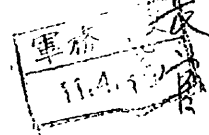
大正十一年四月十一日午後七時四十九分横濱着

(於横濱) 横須賀鎮守府司令長官

海軍大臣

砲艦安宅 本日午後四時三十分無事進水ヲ

終ル



0392

M

大正十一年七月十九日起案

起案者 捺印

前印

又

日發付

發付掛 捺印

發付後起 案者捺印

前印

起案者捺印(甲)

本廳 11.7.11 受替

27 11.7.11 送

(提案) 艦政本部長

大臣

次官

副官 藤田

參事官

總務部長 村越

第二課長 岡坂

第一課長 酒井

第五部長

第四部長

軍務局長 久松 第二課

大正十一年七月十九日

海軍省副官

横濱祇渠株式會社專務取締役 佐

佐 船安宅運轉 関入ル件

七月一日警度後第六二八号 係出主本佐付已ムヲ得

號番

官房第三家三號

局部	受月日	發月日
官房	七月二日	
軍務	7.19	7.20
人事		
艦政		
機關		
醫務		
經理		
法務		
技本		
造兵		
教育		
臨建		
水路		
軍令		

0393

カルモノニ在リテハ職装員及職装員附之ヲ助カス  
ルコト、シ差支甚之哉但萬一ホ作施行中ニ生シタル  
損害ニ對シテハ其ノ責任ハ總テ貴社、於テ負擔セ  
ラル、義ト仰承知奉交  
右依命申進ス

(3)

0394

164

本艦  
11.7.21  
付發

人名  
編綴

普通  
繼續了

番發  
號送

艦本第五六四八號

添付  
圖書

淨書  
者

布發  
大正  
年  
月  
日

安海 儀 裝 久 長

宛

海軍部 長

艦政本部長

- 總務部長
- 第1部長
- 第2部長
- 第3部長
- 第4部長
- 第5部長
- 第1課長
- 第2課長
- 部員

宛 務 安 宅 運 転 入 止 性  
 下 付 案 外 代 甲 号 写 通 知 後 務 装 株 或 分 社  
 為 取 歸 後 号 出 務 对 乙 号 写 通 知 平 者  
 助 及 了 申 進 有 之 長 条 同 社 号 清 來 对 乙 号  
 助 力 方 可 然 而 所 計 本 年 交  
 左 通 知 事  
 ( 乙 号 市 甲 乙 号 添 付 )

案起  
11年  
ク  
ル  
15日  
起  
者  
添  
付

0395

至急

艦政本部

先  
總務部長  
第五部長  
第四部長

監督官經由  
營庶海第××八號  
大正十一年七月一日  
横濱船渠株式會社  
專務取締役 宮永萬  
本艦 117.12 受接  
12  
11.7  
11.10

營庶海第××八號

大正十一年七月一日 横濱船渠株式會社

內閣總理大臣兼 專務取締役 宮永萬

海軍大臣男爵 加藤友三郎殿

砲艦安宅運轉ニ關スル件

目下弊社ニ於テ建造中ノ砲艦安宅來ル七月四日ヨリ試運轉施行可

致候ニ付テハ同艦整備ノ罐汽釀作業ニ關シ弊社ハ未ダ運轉ノ經驗

爲試第一課長 同日同艦整備員附機關料員ヲシテ罐汽釀作業

ニ補助相抑キ度何卒特別ノ御詮議ヲ以テ右御認許被成下度奉懇願

候也

官房第二三九三號

甲号

横濱船渠株式會社

0396

紙用箋附

大正  
如リ  
北

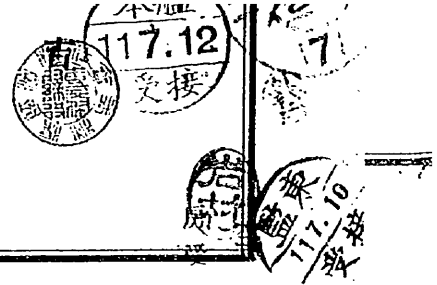
アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

http://www.jacar.go.jp/

株式會社

運轉施行可  
運轉ノ經驗  
唯汽釀作業  
ト度奉懇願



0396

紙用箋附

大正11年7月13日  
海軍艦政本部第五部

本件異存無之認許可然  
リ思勸存不認し従事一好ク  
如ク取清異也ニ對シテハ  
ニ社下白う書ク7馬ウモト下

0397

大正十二年八月二十三日 起案者 除印

案者除印

月

除印

案者除印

三本艦 11.8.25 受接

艦本部 11.8.24 受接

三本艦 11.8.24 受接

本艦 11.8.26 受接

經理部 11.8.29 受接

(主) 軍務局長 久松

第一課長 藤田

局員

大臣

副官 藤田

次官

參事官

總務部長 田中

第一部長 吉田

第二部長 藤田

第三部長 田中

第四部長 久松

第二課長 代 藤田

第三課長 代 藤田

第一課長 代 藤田

軍令部

軍艦部  
第一課長 加藤  
第二課長 加藤  
第三課長 加藤

局部	受月日	發月日
官房	八月廿五日	
軍務		
人事		
監政		
機務		
醫務		
經理		
法務		
技本		
造兵		
教育		
臨建		
水路		
軍令		

軍艦部宅。復原力。関係上補修。須有。世軍工廠。於約一箇月。改造。飛行。必要。此。按。命令。於。本。及。狀況。許。可。範圍。

號番

0399

0398

紙 用 箋 附

大正十二年  
軍令部  
手紙  
一紙  
予  
他  
之



大正十一年八月二十三日 起案

除印

三本

月

11.8.25 受接

11.8.24 受接

11.8.21 受接

11.8.26 受接

除印

11.8.29 受接

(主) 軍務局長

第一課長

局員

大臣

副官

參事官

次官

參事官

參事官

艦政本部長

岡田

第一

經理局

勝

第四

軍令部

軍艦

第三

軍艦安宅復原力ノ問題係上補須有海軍工廠ニ於テ約一箇月  
改造飛行ノ必要アリ此機合會ニ於テ塚本及狀況ノ許スル範圍

號番

0399

0398

局部 受月日 發月日  
官房 八月廿日  
軍務  
人事

約一箇月  
川スツ(丸) (角) (直)

令	路	建	育	兵	本	務	理	務	政	事	務	房	部
												受	發
												月	日
												日	日

11.8.26 受接  
發付後起  
案者捺印  
案罪紙  
11.8.29 受理  
11.8.29 受

0399

0398

紙用箋附

大正11年8月25日 海軍艦政本部第四部  
 本改送... 横... 夜... 夜...  
 一... 九... 中... 向... 了...  
 予... 今... 三... 固... 了...  
 他... 於... 於... 於... 於... 於...  
 之... 於... 於... 於... 於... 於...

0400

ニ此ノ同時、左記各項ノ改修ヲ施行スルコトニ致シ度

(記)

一 前艦橋上ノ「フレットプルーフ」鉄板ヲ除去シ、オーニング「展張」ニ此設ヲ行

ス

(理由)「フレットプルーフ」鉄板「安全級砲艦」ニ必要ナキニテ、銅修

止ヲ妨害スル又艦橋ノ温度ヲ増加シ且「重量」ヲ増加ス

ニ 前艦橋「周囲」「フレットプルーフ」鉄板ニ「スライドア」ヲ「エア」ホールドシテ

設スルコト

(理由)夏期艦橋ノ温度上昇ヲ減スル為

三 前橋「機砲」用「播揚」前部「探照燈」一具ヲ「現」固有「機砲」ニ

「照」シ「之」ヲ「射角」ヲ「増加」スル為「是」レ「移」動「可」得「如」ク「適」切ナル「手段」ヲ

採ルコト

(理由)「機砲」用「播揚」ノ「射」面「積」大ニシテ「探照燈」一具ヲ「是」レ「射角」ニ「装

0401

備ノ余地大ナルヲ以テ待リ探照燈屋ヲ橋樑ニ構設スル必要  
ナキニシテ現在ノ如キ固定式機砲ノ射角ノ制限ヲ受ケズト  
大ナリ

四、前橋探照燈屋ニテ撤去スルコト

(理由) 三ト同射スル重身輕減ハ為

五、前高橋ヲナクモ橋樑ノ位置(五)ニ必要ナルコト取リ如ク設備スルコト

(理由) 外洋航母ノ場合且他前高橋引取リノ必要アリ同之現

在リ取リト之ヲ取リ去ル航母

六、前部八種高角砲ニ通ル兩舷通路(中)ヲ除去スルコト

(理由) 待リ必要ナシ且重身輕減ハ為

七、右舷探照燈屋ニテ小型燈屋式ニ改ムルコト

(理由) 岨岨ノ如ク兩舷移動前ノ必要ナシ且重身輕減ハ為

(備考) 岨岨ニ一基置キテ前部ニナシ

本件  
取上書

海

軍

本件今  
は修繕  
トナリ  
行ハレ  
由

八 前部船橋甲板及びボート艀船設備、固定式構架ヲ移上船式

トナリ

(理由) 固定式、艦内性能、適合せる三脚架木等ヲ依リ仕上後

四、移上船使用ニ得ハル

九 艀船居住施設ヲ改善スル為、次ノ改造ヲ推ス

(1) 上甲板前部右舷特務士官室一私室二及左舷船橋備室

ヲ撤去スルコト

(2) 上甲板後部副官室上シ二人床<sup>又々厚室</sup>副官室<sup>又々厚室</sup>又中甲板

後部備室上シ二人床<sup>又々厚室</sup>特務士官室又、船橋備室上シ中甲板左

舷船橋備室上シ特務士官室ニ改ムコト

(理由) 岨岨ニ此ノ案定、固有定員ニテ艀船十八名増加セシメ

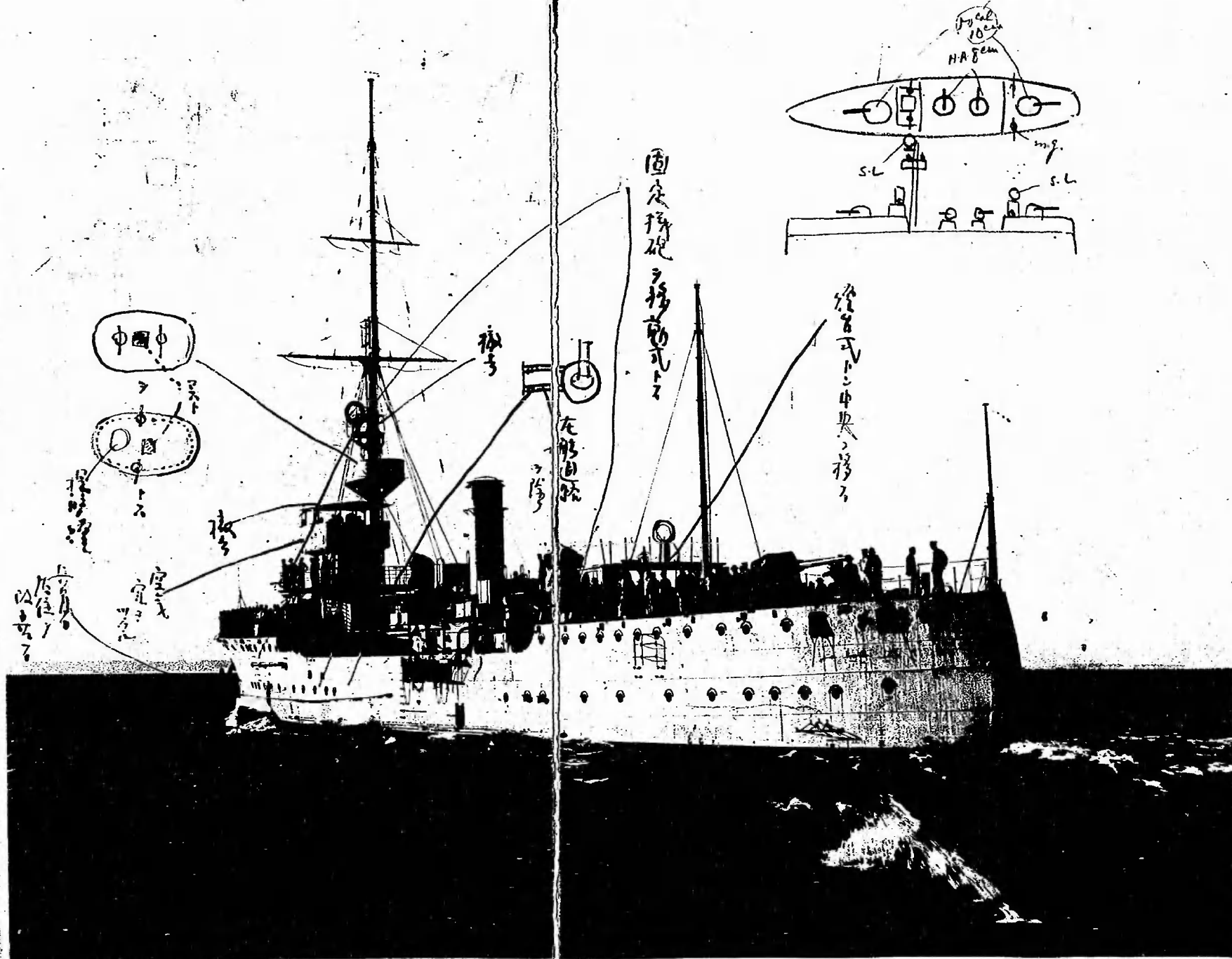
艀船居住施設、殆ド改善セシメテ艀船居住施設増十名

付、改造事業、特務士官室ヲ後部ニ移シ、収容合ニ特務士官室

0403







固定機砲ヲ移動式トシ

カタギ式トシ中興ヲ移ス

中圖

機

左舷砲

位置

位置

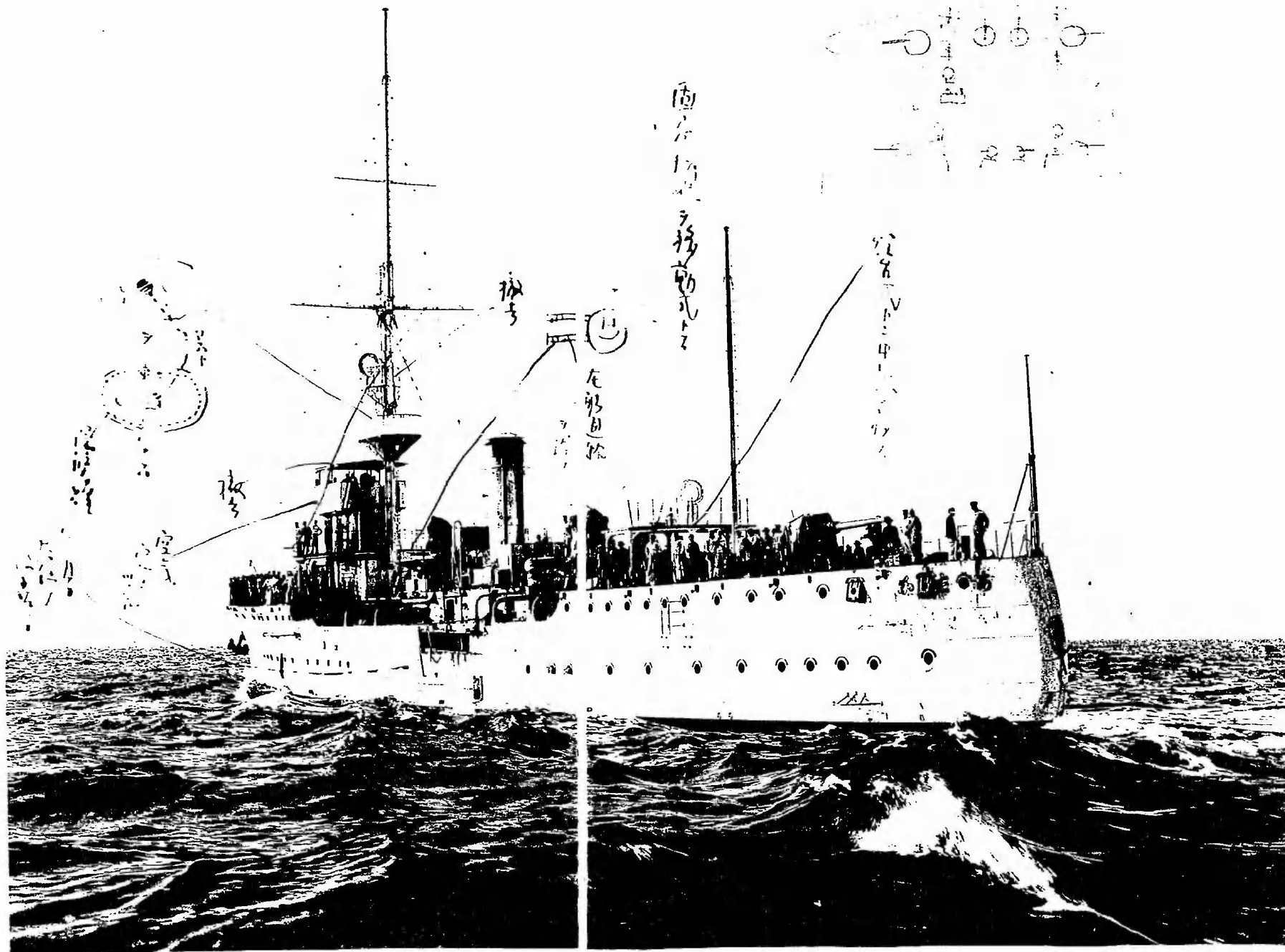
0406  
0407

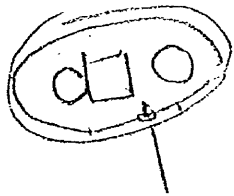
アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>







欽

0408

其  
月

大正十一年八月十二日午後三時  
東京着

(於横浜) 淡中監督官

海軍大臣

軍艦安宅本日引渡了ス

第一課

淡中

0409

至急

機密第三三四三號

大正十一年八月二十五日

岡田海軍艦政本部長

第一課大角海軍省軍務局長殿

軍艦安宅改装工事ノ件

八月十七日軍務機密第六。九月号照會ノ  
軍艦安宅改装工事ハ本年九月中旬  
迄ニ竣工スル様至急ニ事施行ノ事ニ  
取計可致  
右回答ス

(終)

海軍

機密第三三四三號

機密第十一行野務

局受  
11.8.25

0410

海軍

横道半葉十三行露紙

軍務局長

大藏

第一課長



局

員

十一年八月十六日

十七日 海軍部 第二課

海軍航政課長宛

海軍航政課長

航空、関係件

航空、揚子江方面海水、関係上運送を十月月中旬迄に上海に到  
 有るに非し、且、揚子江方面、潮漲航困難、有之、而して備上最悪なる  
 處、至大、有之、故、行、今航改裝、五年に運送を九月末迄  
 迄、完成せしむべき事、願、上運送を九月二十日、五、揚子江方面、  
 俾、得、維持、御、願、心、御、度  
 右、略、答、す

此、三、丈、現、情、に、依、り、今、航、改、装、を、十、一、月、迄、に、完、了、す、べ、し、と、申、上、り、  
 一、月、迄、に、完、了、す、べ、し、と、申、上、り、

(密井納)

0411

前通 即日 翌備上 許容の 限度 有り 同日 方合 用 済

海 軍

横道半葉十三行露紙

9-20  
 14  
 10-4  
 7  
 10-11  
 3  
 10-14  
 3  
 10-17  
 6  
 10-23

投 信 翌 日  
 依 子  
 依 子  
 上 付 子  
 上 付 子  
 上 付 子  
 上 付 子

(富井納)

0412

大正十一年九月八日起案

起案者 漆印

九月三日發付

發付者 漆印

起案者 漆印

發付後起案者 漆印

(提案) 監査部長

田田

大臣 段

次官

藤田

參事官

副官

藤田

藤田

軍務局長

大南

第課長

局員

經理局長

勝

第一課長

指令案

大正十一年九月二十五日

大臣

横濱機密第八二九號之申込艦中定兵裝ノ  
件認許ノ要スル費用ノ承認製造兵費等并

官房機密第三七〇號

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技本	法務	經理	醫務	機關	艦	人	軍	官房	局部

0413

トシ議永ヲ俟テ別途配付ス

(終)

0414



海軍大臣

機密第一三九號

大正七年八月九日

横須賀鎮守府司令長官 財部 彪

海軍大臣 男爵 加藤友三郎 殿

艦政本部

砲艦安宅兵装ノ件

第三部 廣瀬船渠株式會社ニ於テ建造ノ砲艦安宅無線電信機兵装及諸公試費別圖

第一部 ノ通り計畫シ別表ノ通り豫算編成セシム工事施行方御認許相成度

右 上 甲 ス

總務部

第三課 別紙豫算書一通

第二課 圖三葉 添付

第一課 領收

機密第一三九號

第三部製圖所 圖面表紙保管

官房機密第一三九號

艦本 11.9  
三本艦 11.9.1  
本艦 11.8.30 受接

0415

大正 年 月

三課 領收  
車持被服係  
作取計相成

<p>艦本 11.9 三本艦 11.9.1 受接 本艦 11.8.30 受接</p>	<p>部 彪</p>	<p>兵装及諸公試費別圖</p>	<p>認許相成度</p>	<p>白河秋保館</p>
--	----------------	------------------	--------------	--------------

0415

大正 年 月 日

三課長 海軍艦政本部第三部

本艦相成度

0416

砲艦安宅兵裝費

体  
便  
科  
器

豫算内詳書

番號	工事名稱	數	工費	材料費	附屬費	計
一	無線電信機据付電路敷設	八	八〇〇〇	五〇〇〇	五二六〇	八二六〇
二	公試	一	一五〇〇〇	一〇〇〇〇	六〇八〇	三二〇八〇
三	電氣公試	二	二〇〇〇〇	〇	九二二〇	三三二二〇
四	照準器平行検査	一	一三〇〇〇	三〇〇〇	五七〇〇	二七〇〇〇
五	砲煩公試	一	一〇〇〇	〇	五二〇〇	二〇〇〇〇
六	彈藥裝填費	一	一五〇〇〇	五〇〇〇	七二〇〇	三六九〇〇
七	水路計器公試	一	一五〇〇〇	〇	四七五〇	一七二五〇〇
	計		一五三〇〇〇	五九六〇〇	八八七三〇〇	三三二二六〇〇

無線電信機工事ノ爲メ高等官出張旅費四拾圓ヲ要ス

彈藥裝填費ノ供用款不明付 船艇艇下同款ト見做シ概算セリ

照準器中心検査ノ爲メ高等官出張旅費貳拾六圓ヲ要ス

海軍

大正十一年十二月二日起案

起案者 捺印

山田

一月十日發付

發付掛 捺印

案者捺印

發付後起

案者捺印

(提案)

艦政本部

田中

第四部長

河合部員

河合部員

河合部員

河合部員

河合部員

河合部員

河合部員

大臣

次官

副官

勝

參事官

藤田

藤田

藤田

藤田

藤田

藤田

藤田

藤田

藤田

總務部長

和哉

和哉

和哉

和哉

和哉

和哉

第三課長

和哉

和哉

和哉

和哉

和哉

和哉

第二課長

和哉

和哉

和哉

和哉

第一課長

和哉

和哉

和哉

和哉

第一課

和哉

和哉

和哉

和哉

和哉

和哉

總理局長

勝

第一課長

和哉

和哉

和哉

和哉

和哉

和哉

和哉

和哉

局部	受月日發月日	1.9
官房	受月日發月日	
軍務	受月日發月日	
人事	受月日發月日	
總理	受月日發月日	
司法	受月日發月日	
艦政	受月日發月日	
技本	受月日發月日	
造兵	受月日發月日	
教育	受月日發月日	
臨建	受月日發月日	
水路	受月日發月日	
軍介	受月日發月日	

大正十一年五月十日 大臣

依鎮長官宛

軍艦安宅豫備錨鎖製造一件

其ノ府工廠ヲシテ軍艦安宅豫備錨鎖八節製造

號番

官五五號

紙用箋附

大正十一年  
ハニ即

0418

19

年月日

0418

附録

大正五年十二月二日  
 海軍艦政本部第四部  
 ハン即子價格約四千円ノ込

0419

ノ費用ハ軍備補充費、軍艦製造費支弁トシテ請求シ候事  
余配付ス  
右訓令ス

官房第五五號

大正五年十一月十日 大臣

第一遣外艦隊司令官宛

軍艦安宅豫備錨鎖製造ノ事

頭書ノ件ニ関シ別紙寫ノ通依世保鎮守府司令長官ニ

訓令候条此旨心得

右訓令ス

別紙寫ニ奉添

(終)

(終)

本艦  
12.1.12  
付發

入名  
編綴

普通  
總結  
了

發送  
艦本第一四九號

布發  
大正 年 月 日

艦政本部長

第 第 第 第  
部 部 部 部  
長 長 長 長

總務部長

第 第 第  
一 二 三  
課 課 課  
長 長 長

部員

佐世作工廠長

宛

女  
部  
長

軍艦安宅予備錨鎖製造一件  
今般友房第五五號より軍艦安宅予備錨鎖八節  
製造方訓在成成文右に徑一可八分三ノモリノ別紙同  
面通リ製造上合般に送付成成交尚錨鎖以事時  
艦内之搭載也揚子江沿岸適者ノ場所ニ格納シ之  
下、之其右房一連ノ艦隊司令官大連知皮ニ送付  
在通知成成

添付  
圖書  
者書

本艦  
11.12.27  
受接

二總艦  
11.12.26

11.12.28  
受

案也  
11.12.27

0421

進平海軍同向用海軍兵隊即五成  
軍艦安宅鎮之同一章海軍

海

軍

海

(山本納)

0422